

いなづま

題字 小寺寛一

発行所 函館地方電気工事協同組合
 編集総務部
 住所 函館市日乃出町7番22号
 印刷所 島山印刷

函館港まつり



全国花火コンクール (58. 8. 6)

“北電引込以下工事資材”

業者持制度の概要

われ々組合員にとって長い間懸案事項でありました北電の引込以下工事資材の業者持制度が、愈々本年十月一日以降実施されることに決定しました。

このことについては、過日北電よりその取扱いについての説明会が開催されましたので承知のことかと思いますが概要についてお知らせいたします。

最初に、引込以下工事資材の業者持制度とはどのようなことかと言うことですが、すでに承知のとおり計器箱・計器板についてはこの制度と同じ取扱をして居ります。と言うことは、組合員が計器箱・計器板を組合から購入して需要家に取付をし、工事竣工後北電から組合を経由して計器箱・計器板の代金（北電買上価格）と工事工料が支払はれます。

このことは、計器箱・計器板は北電の資産であると言ふことで、工事工料は勿論計器箱・計器板の代金を需要家から貰っては不可と言うことです。（但し自家用構内等で需要家資産のものを除く。）

引込以下工事資材業者持制度と言ふのもこれと全く同じ理屈です。組合員が引込以下工事の資材を組合から買って工事を施工し、工事竣工後北電から資材代金と工事工料が組合を経由して支払はれるのです。

最近、計器箱・計器板、自動点滅器等いわゆる北電の資産であるものを需要家から代金を貰っていると言う苦情が寄せられることがありますので、充分注意をして下さい。

それでは、どのような工事が対象になるかと言うことですが、電設付帯引込線工事（外線を伴なう引込工事、引込線改修工事およびその他の標準外の工事を除く）が対象になります。
次に対象になる資材ですが、電線類を含め四五品種

一二五品目あります。

対象資材の取扱い要領について

ではその対象資材をどのようにして調達するかと言ふことになりますが、使用する資材はすべて組合が調達することになりますが、その調達方法は次の通りです。

一、有償譲渡

電線、自動点滅器、電線ヒューズについては北電の貯蔵品を有償で譲受けます。

二、自己調達

消耗品的資材（対象品）銅線用圧縮直線スリーブ、ステンレスバンド、VV用丸サドル、リングコチ、安全ケッチホルダー、圧着ヒューズ、引込標示管）は自己調達いたします。

三、前記一、二以外の諸材料については、自己調達を基本としますが、業者持制度移行時および本制度が安定するまでの暫定期間は北電貯蔵品を有償で譲受けます。

対象資材の品質管理について

次に対象資材の品質管理の問題ですが、業者持ち対象資材は管理基準を定め、次によって品質保持の徹底をはかります。

一、組合が調達する資材のうち指定品目については、品目別にメーカーおよび仕様を定め指定外品の調達を防止します。

二、品質管理上特に重要な電線、自動点滅器および電線ヒューズは有償譲渡とし、かつ撤去品の再使用を認めないこととします。

三、組合は自主的かつ積極的な品質管理対策を定め、この励行に努めます。

四、工事業者の在庫調査および竣工調査時の実使用資材の抜取り調査等により規格外品の使用を防止します。

電設付帯引込線工事の機械処理要領について

電設付帯の引込線工事は、現行どおり業者設計であります。標準パッケージ工事の設定、引込線工事マーカードの採用等によって、資材・工量の集計業務が機械化されます。

一、低圧引込線工事の標準パッケージは、架空引込線（単独直接、他社共架、連接）、屋内引込線、電柱灯引込線、引導導線の主工事および接続替、部分修繕等の雑工事であります。

二、標準外の引込線工事は、高圧引込線、地中引込線集合ケッチ、電柱灯々器移設およびメッシュセンジャ付引込線工事等の特殊工事で、業者持ちおよび機械化の対象外であります。

三、電線、自動点滅器、腕木および軽腕木以外の資材は、引込線パターン別の標準数量で資材代を算定しますが、外線工事要領、配電設計基準等に基づき適正な資材を使用して施工します。

取外した資材の取扱いについて

工事で取外した資材は次によって算出し、各工事業者に買却されます。

売却資材代 = 取外数 × (資品料 × 質料) + (1 - 質品率) × 単位重量 × 質料削減率

無言

一、取外数量は、電線、自動点滅器、腕木および軽腕金については実数量とし、他の材料については引込線工事のパターンごとに標準的に設定した品目別数量とします。

二、良品率とは、撤去資材のうち良品が占める割合を平均値的に設定した率であって、品目別の良品率は普普通地域と塩害地域に区分して別に定めます。

◎お願い

以上概要について書きましたが、詳細についての取扱いは隨時支部会議等で連絡いたしますので、支部会議開催のときは必ず出席するようお願いします。

第一回役員会

五八・四・六

一、慶弔報告

- (一) 烟山電気商会代表者病氣入院見舞
- (二) ㈲堀野電設社長病氣入院見舞
- (三) 繁田電気工業所代表者母堂ご逝去
- (四) 繁田電気工業所代表者病氣入院見舞
- (五) 三興電機㈱社長病氣入院見舞

二、貸付報告

七社

二六〇万円

三、各支部報告並提案事項

東支部

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

福島支部

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

八雲支部

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

江差支部

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

中渡島支部

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

赤川支部

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

吉田電気商会

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

正栄電気

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

巴電気工業所

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

全日電工連政治連盟

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

組合青年部

引込資材業者持制度について概略の説明

七社

二六〇万円

役員会だより

- (国) 電気安全表彰者の推せんについて
 内、春の交通安全運動について
 (内) 最近の倒産関係と問題点
 (内) 組合創立三五周年について
 五、技術・教育委員会事項
 (内) 全道電気工事技能競技大会の出場者推せんについて
 (内) 渡島支庁による電気工事業法立入検査の報告
 (内) 積算設計研修会の報告(出席者三六名)
 四、北工連絡会について
 (内) 防犯灯新設工事について
 (内) 高圧電気申込時の子メーター個数の記入について
 (内) 北海道電気内線サービス㈱について
 (内) 事業内認定職業訓練校について
 本年度の入校希望者を募集したが四名より居ら
 ないので一応休校とする。なお電気工事士試験
 のための特別訓練については今後も継続する
 六、事業委員会事項
 (内) 北電引込以下工事資材の業者持ちについて
 第二回役員会
 一、総務委員会事項
 (内) 総代会について
 日時、場所、提出議題について審議決定した。
 (詳細別掲)
 (内) 昭和五七年度収支決算について
 (内) 剰余金の処分案について
 四、昭和五八年度事業計画案並びに收支予算案につ
 いて
 五、新規加入申込みについて
 申込のあった二者について承諾した。
- 二、技術・教育委員会事項
 (内) 主任電気工事士会議の報告(詳細別掲)
 (内) 工事見積時の北電資産の混入について
 (内) 全道電気工事技能競技大会出場者の変更

組合行事

3月3日 中央会主催労働問題懇談会に坂本事務局長出席(於拓銀ビル)

4日 赤川支部『清和荘』ボランティア(詳細前号掲載)
 11日 東支部会議
 全日 積算設計研修会(於流通センター)出席者三九名

18日 道工業組合役員会に大倉理事長、吉田副理事長出席(於札幌市)
 25日 小規模企業振興委員会に坂本事務局長出席(於函館商工会議所)

4月2日 十勝協組創立三十周年記念式典に吉田副理事長出席
 8日 八雲支部総会
 6日 第一回役員会
 7日 総務委員会議
 12日 東支部会議

12日 全日電工連第三者損害賠償制度審査委員会に西岡理事出席(於札電協)
 13日 労働保険年度更新事務(於組合会議室)
 全日 全道電気工事技能競技大会審査委員会に吉田副理事長、吉岡委員出席(於札電協)
 15日 中渡島支部会議

壮年組優勝者が業務の都合に依り出場出来なく
 なったので二位の者を出場させる。

四、訓練校卒業式について

(内) 参加者全員の出席で開催された。
 (内) 函館地区北工連絡会の開催について
 (内) 引込・計器工事業者申込について

三、事業委員会事項

(内) 全日電工連第三者損害賠償制度について
 (内) 全日電工連第三者損害賠償制度について
 (内) 全日電工連第三者損害賠償制度について

四、訓練校卒業式について

(内) 第三者損害賠償制度の加入について
 (内) 引込以下工事資材業者持制度について
 (内) 安田生命企業年金保険料の改定について
 (内) 別途通知(別途通知)

五、北電引込以下工事資材の業者持制度について

(内) 住友グループ共済制度について
 (内) 北電引込以下工事資材の業者持制度について

第三回役員会

一、慶弔報告

(内) 函館電設㈱社長母掌ご逝去

二、貸付報告

西支部Ⅱ総代会議案書の説明をした。

三、各支部報告並提案事項

東支部Ⅱ全右
 八雲支部Ⅱ(八雲ブロック)
 (森ブロック)

(内) ソフトボール大会を開催した。

(内) 北工連絡会を開催した。

(内) 夜桜懇親会を開催した。

(内) 北電引込以下工事資材の業者持制度について

五八・四・二三

(内) 森地熱発電所を見学した。

四、総務委員会事項

(内) 所属支部の変更について
 (内) 若狭電気 中支部(旧北支部)

(内) 税務研修会の報告(出席者一名)

(内) 北電関連工事安全衛生協議会の報告

(内) 函館地区協議会(4月2日開催)

(内) 道南地区建設業安全総決起大会の報告

(内) 五月一九日開催(ホテル函館ロイヤル)

五、技術・教育委員会事項

(内) 全道電気工事技能競技大会の報告(詳細別掲)

い　な　づ　ま

全日	58" 主任電気工事士会議（於ホテルアカシヤ）
18日	シヤ） 詳細別掲
19日	総務委員会議
20日	福島支部総会
21日	訓練校指導員会議
22日	期末会計監査
23日	第二回役員会
24日	道工業組合役員会・委員会に大倉理事長出席
25日	吉田副理事長出席（於札幌市）
26日	北電関連工事安全衛生協議会に大倉理事長出席
27日	定期健康診断、日本赤十字献血（詳細別掲）
28日	北支部定例会議
29日	訓練校第十七期生卒業式（於組合会議室）
30日	いなづま編集会議 詳細別掲
31日	八雲支部北檜山プロック森地熱発電所見学 全道電気工事技能競技大会特別訓練（於市訓練センター）
11日	厚生年金代議員会に大倉理事長出席（於札幌市）
12日	八雲支部八雲プロック会議 中央会通常総会に大倉理事長出席（於札幌市）
13日	北電函館営業所安全協議会に佐々木（三）理事外二名出席（於北電会議室）
14日	中渡島支部会議兼親桜会
15日	全道電気工事技能競技大会に参加（於滝川市）
16日	中央会道南支部通常総会に坂本事務局長出席（五島軒駅前支店）
17日	道南地区建設業安全総決起大会に佐々木（三）理事、坂本事務局長出席（於ホテル函館ロイヤル）
18日	東支部会議

「技能競技大会に参加して」

恒例の全道技能競技大会は去る5月14日、滝川市の

青少年体育センターで開催された。

全道11単協から予選を経て参加した選手は少年組13名青年組16名、壮年組13名の計42名で午前8時30分より始まった開会式は滝川市長を始めとする来賓の祝辞で盛り上り、9時30分競技開始で熱戦が繰り開けられた。

会場の体育センターは内部も広く競技場となつたアリーナも充分余裕があり、特に作業板相互の間隔を例年の大会よりも広くとった関係で、選手諸君の作業も比較的伸びやかにみうけられた。周囲二方向の観覧席も適当な距離で、まづは理想的な会場であり設営であると見受けられた。

当組合からも去る2月20日の支部大会の各組優勝者が

が出席した、出発直前まで約3日間の特訓を行い、満

を持して大会に出場したが、この大会が来年以降暫時

中止になる噂もある処から、各単協とも選手強化には

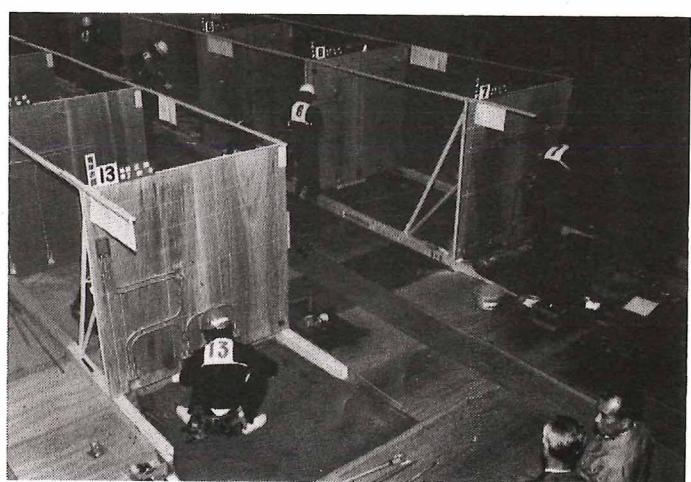
充分留意したとみえ、競技開始後の約1時間経過時の

見ばえは各選手とも遜色がなかつた。

3時間の競技時間が過ぎて審査に入ったが壮年組に未完成が2名おり、誤結線は少年組に1名、壮年組に3名も出て了つた。他は甲乙つけ難い出来ばえで予想通り審査には時間を要した。

当組合の3選手は少年組の加藤敏広君（巴電工舎）は8位、壮年組の藤井季敏君（松本電気工業）は5位で入賞、青年組の西村善光君は堂々1位に入賞し面目を施した。

前述した様に、回を重ねて15回に至つた本大会も今回をもって一応の中止となり、技術技能向上と振興のためこれに代わる新たな構想を練る事となつた。ともあれ今回の大会が盛会裡に無事完了した事は地元空知組の役員始め組合員諸兄の絶大なご協力の賜であり関係者の労を心より謝して終りいたします。





昭和五十八年度の第三十五回通常総代会は、去る五月二十七日午后一時より組合会議室に於いて、総代定数八十三名中六十九名（委任状提案者二十六名含む）が出席して開催された。

冒頭のあいさつで大倉理事長は、昨年来予期された事とは云え予想を上廻る景気低迷で企業経営環境が悪化している中で、一段と激化を予想される低価格受注

に対する自戒と警告を、又企業経営に重大な打撃を与える労働災害事故の絶滅を訴え、来る十月より北電の引込線資材業者持制度が新発足する等の報告があり議長選出に移った。

議長に三立電気㈱酒井好一氏、副議長に大鎌電気㈱大鎌哲雄氏が指名推薦により選出して議案の審議に入った。

第一号議案「昭和五十七年度事業報告並びに決算について承認を求める件」

第二号議案「昭和五十八年度事業計画案並びに予算についてそれぞれ理事側並びに事務局より内容説明と質疑応答が行われた。第一号議案について昨年上半期決算時に於ける商品利益及び手数料収入が前年比大幅な減額した事が寄与し、又下半期主として計器函、板の商品売り上げが伸びた事により黒字決算となつた経緯が説明された。

又第二号議案については、昨年に引き続き訓練校の入校希望者がなく昨年の二学年休講に続き、十八年余に亘った訓練校も「休校」の止むなきに至り、毎年支給されていた訓練校助成金が打ち切りとなつた。

議案審議は以上のほかさしたる論議もなく、その他の部では、十月より施行される「引込線資材業者持制度」の現在に至つた経緯と概略の説明が吉田副理事長

第35回 通常総代会 開催される

よりなされ、この件につき一、三の質疑応答があつた。
以上すべての議案審議を終え午後四時十分終了散会となつた。

組合員の異動

(新)

(旧)

一、㈱若狭電気

函館市八幡町二〇一〇

函館市亀田町二一一九

一、小木電工社

山越郡八雲町豊河町

三〇一九

山越郡八雲町富士見町

一、㈲ヤマデン

一二六

㈲山電気工業

組合員消息

一、三月一八日 繁田電気工業所代表者繁田一義
入院

一、三月一八日 殿ご母堂ご逝去

一、四月七日 函館電設㈱社長松本明殿ご母堂

ご逝去

一、六月一〇日 西川電気商会代表者西川文夫殿
ご母堂ご逝去



隨筆

ふたたび中國へ

その一 平沼智子

正面積迦三尊のうち左右の脇侍は僧形なので仏弟子の加葉尊者、阿難尊者かと思つたら、文殊菩薩、普賢菩薩との事である。日本と違つて仏前にいろんな莊嚴具はなく、花瓶、燭台、香炉だけである。本尊は頭上以上の高さに安置され、仏前では首を可なり後に曲げないと拝顔出来ない。それだけに天井も高い。床はたたきで五体投地の礼拝の時に手をつく為の台が並んでいる。この台は四十～五十センチ四方、高さ十五～二十センチ位で、蓮の花の刺繡が施されたカバーがかけられてある。又本尊の前にも赤い幕が下がり左右に引かれてある。この幕にも美しい糸で刺繡が施されている。中国々花の牡丹や蓮華の外、蓮の根（レンコン）から花や葉が出ているデザインは珍らしい。

本尊は金箔を張ると言うよりは金を厚く塗つたと言ふ感じでボデッとしている。左右の脇侍も壁に並ぶ五百羅漢（十八体あつた）と同じ感じである。「木魚」はあるがこの時の日中合同法要には太鼓があつた。太鼓は本尊の脇でたたいてるので吾々の頭上で鳴つてゐる。段のついたやぐらである。太鼓の撥が長く細いのでドンドンではなくパタパタと言う音に聞える。

初めの法要がすみ少年僧の御給仕で昼食、中国の精進料理である。精進だが意外と油を多く使用している。日本の京都、宇治の黄檗山万福寺の普茶料理は中国の精進料理との事で食した事があるが、万福寺の方が淡白な味である。日本人向きに改良されたのであるうか。

昼食後、智者大師の墓所に向う。山麓の国清寺からバスで山腹をう回しながら約三十分、人民公社のある台地で下車し細い山道を一列になつて登り、下り、又

登つての一時間、墓所の「智者塔院」に着く。道端まで畠でどんな狭い小さな空地でも良く耕されている。「耕して天に至る」を地で行つてゐる感じである。豆、さつまいもの収穫中であった。

「智者塔院」は六角重層の石塔が建物の中央にありその石塔の下に智者大師の遺骸がねむつてゐる。堂の両側の壁は先師十七人の画像がかけられ、これらの祖師画像の原本の中に日本の最澄伝教大師の画像もある。教科書の挿絵のルーツとの事である。

夕食は圧感、二十五品の料理が出る。国清寺主催の歓迎宴会であつた為もあるが美事、二十五品と言つてもすべて菜食、肉も魚も使用せず料理の主体は「ゆば」と小麦のエキス「グルテン」である。これに野菜、胡桃、杏、ピーナッツ、日本では高価なくわい等をあしらひ、「ゆば」も細く切り太く切り、厚くのばし丸く千切つて使用、グルテンも同様でやはり野菜、果実を混ぜる。菲に似て細く丸くそして潰れずにシャキシャキしている野菜があつた。誠に美味であつた。アルコールは全然出す乾盃もジュース（みかん）である。

中国僧はアルコールを禁じられているそうで日本僧より日常の戒律はきびしいようだ。この歓迎会で国清寺の住職、唯覚法師の挨拶が心に残つた。

『日本の浄土宗を開いた法然』淨土真宗を開いた親鸞、曹洞宗を開いた道元、そして日蓮と皆日本天台宗を学んでから己の道を進んだ事を今回はじめて知った。最澄がこの天台山で学んだ事が大きく花を開いた』と。

二十五品も出てワーッ大したご馳走と思うが、取り

皿一枚汁わん一ヶである。皿は中皿の小ぶりのもの、汁わんは日本のレストランで使用している位の大きさのものである。少しづつ食し全部試食してみた。例通り始めは通訳に聞きながらメモをしたが、中頃から口の中の味が混雑して何が何だかわからなくなつた。「菜单」（メニュー）を持ち帰つたが現在では全然わからない。材料は同じでも調理の方法がバラライティに富み美事である。

会食中筆談

『中国料理美味飽食面過食』（中国料理はおいしいので食べすごしてしまふ。）

『不要緊素菜容易消化』（材料は野菜なのですが消化するから食べすぎても心配ない。）

と返事がかえつて來た。

宿舎は大人數なので二班に別れ私は幸運にも本堂脇の食堂（斎館）の上と決まつた。ここは全くの中国式の寝室である。白い幕でベットの廻りを天井からすっぽりと包み、昔の「かや」を思わせる。出入りは幕の合せ目で上に吊りあげてあり眠る時下ろす。寝台列車を想像すればよい。スペースが広いので窮屈感はなく枕カバーは中国らしく刺繡が施されて楽しい。

十月十九日、いよいよ目的の除幕式の当日である。

早朝五時の読経との事なので四時に起床し洗面する。昔、明治の頃日本人のスペイが中国に入つた時、中国人と日本人の見分ける方法の一つとして、日常生活の習慣の違いをチエックしたと言う事を年少の頃本で読んだ事があった。長い間、頭の隅にあった事を今回実際に目撃した。それは洗面の際日本人は手を動かし中國人は顔を動かす。本当かどうか洗面所に中国人の先客が居たのでチッと見て居たが、本当に顔と言うよりも手を動かす。ウーン成程と五十年前に読んだ本の記事を実証できた。又煙草を吸う時昔はキセルだったので、日本人は吸つた後は吸いがらを捨て次すぐ吸えるようにしておく。中国人はそのままで次に吸う時に掃除をする。これも日本人・中国人の習慣上の大きな違いだ。

つた由。私は帰国してから中国式洗面を実行しているが水が散らなくていいようだ。又首を動かすので肩コリをほぐすにもいいのではないか。

読経後七時の朝食まで諸堂を見学参拝する。まだ夜が明けきらず堂から堂へ、室から室への通路に警備の人がたつ。私はスピードを出しすぎてどんどん先に進んでしまい他の列に並んでしまった。日本からの贈呈品や出土品、古い時代の経本が多数保存され、又修理中の仏像等があった。門前に隨塔が建つ。西安市の大塔と同じレンガとしつくいの構造でないかと思う。

しつくいはすすけてその白

さは望めなかつたが…。こ

れは錫帝が建て一、三〇〇

年の風雪に耐えている。五

九・三メートル、九層六角

の塔の上部の草が朝の風に

そよいでいた。「隋梅」と

言う古い梅の木がある。隋

代に梅えたと言うが本当な

実をつけたそうで、国清寺

の唯覺法師は不思議な事だ

と言つて居られたそうであ

る。木は以外と細く一、三

〇〇年と言う大木ではない。地を這つて立上つている

木であるが、木肌は青く苔が生えていた。まさに「古

色蒼然」の感が深い。

朝食後、八時迄に正装して大雄宝殿前に整列する。

僧侶は新調の法衣である。本山から正装に準ずる服装との御達しなので、荷物になつたが着替を持参した。

お座主様も唯覺法師も共に法衣は赤である。そして金糸で刺繡が施されている。衣は同じ様式だが日本は一方の端を左肩下に巻き込み、中国は止具を使用する。

この止具は日本の禪宗の僧達も使用しているのを見る



ことがあるので、中国全土禪宗化したと言う事は肯けれる。開放後旧に復元を急いでいるとの事だが、まだ服装までは手が廻らないのである。

顕彰碑は大雄宝殿の真後の山を切り開いて建立された。三基の碑を軒先がそり返つた屋根をもつ碑亭が覆う。若い日本の僧のとなれる詩歌の中を中国・日本と千鳥に並んで石段を昇る。今年は日中友好平和条約締結十周年の記念の年にあたり、この顕彰碑の除幕開眼も両国の仏教協会の友好の意味に於て営むと言ふ事は意義のある事であろう。

いよいよ開式、一瞬緊張

が走る。中国の開式の辞につづいて除幕。日本は白布

で被つておくが中国は黄色

リボン（紐）は紅白で両国

同じ。黄色は中国では最高

の色の由。碑面は中国仏教

協会長趙撲初法師の筆にな

る。立派な筆跡である。

中央「天台智者大師讚仰

頌碑」と大書し金箔を施す。

統いて長文と詩文が彫られ

同じく金箔をおく。趙撲初

法師は現在中国第一の詩人

で、仏教学者としても国民

から人間国宝として尊敬さ

れている方である。すらすら読みないのが残念、さだ

めし立派な比類のない文章なのである。後日、智者

大師の生涯と日本天台宗との関係など明瞭簡潔に書

かれている由を聞く。

右は「行満座主贈別最澄大師詩碑」と大書し同じく

金箔をおく。碑面は伝教大師の直接の師である「行満

」が日本に帰国する大師に対する「送別の詩」であり

左は「最澄大師天台得法靈迹碑」と大書し、万里の波

濤を超えて中国に渡つた様子から、帰国して日本天台

通しての顕彰文である。いづれも金箔をおく。碑の材質の説明がなかったが多分大理石か玉石であろう。白い石材で高さ二メートル七十七センチ、巾一メートル三センチ、漢字の国だけあって美しい文字に魅せられる。

除幕後両国の開眼法要、つづいて両国代表の挨拶があつて約一時間十分の式は終了した。式の間写真は禁止、許されたのはカメラマンとテレビ取材だけである。

このあと大雄宝殿で「日中友好祈願」の法要があり今回訪中の目的は完了した。この間二時間半、立ちっぱなしである。私は最後尾に並んだから時々足を右に左に出して息を入れたが、前列は大変だったと思うがさすが老僧達は立派であった。四十台迄の若い僧達は長く立つ訓練が出来ていないのだろう。後から見ると列がグチャグチャである。その点中國側はビクともしない。日常座ると云う習慣がなく常にたたきに立つての勤行だから何ともないのである。

昼食後いよいよ帰途に着く。帰りも来た路を通る。

沿道は歓迎も警備も同じである。ヤレヤレ大役は終つた。明日からは観光である。ホテルに着いたトランク張がすっかりぼぐれた。

天台山から参加者全員が密柑を一籠づつもらう。蓋の上の赤い紙に墨書きで「天台密桔」とある。日本では密柑であるが中国では「密桔」である。観光の移動毎に二人、三人とこの籠を捨て、日本に持ち帰つたのは私一人である。私は終生の記念に大事に保存している。

(以下次号)

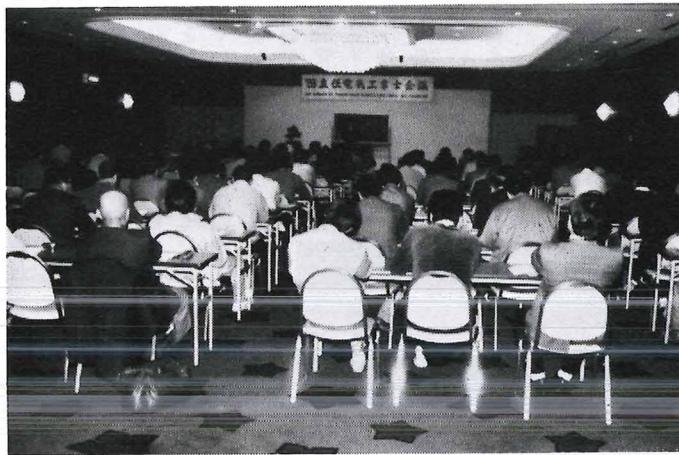


"58"

主任電気工事士会議

全道各協組で開催

札幌通産局、北海道商工観光部、北海道電気工業組合の共催、北海道電力㈱の後援により、北海道ではじめての主任電気工事士の研修会議が、去る三月二二日の札幌協組を振出しに全道十一協組で開催当組合では四月十五日函館ホテルアカシヤにおいて、一五一名(一四八組合員)が出席して開催されました。



初めて吉田副理事長より『法律によって一社に一人必ず主任電気工事士を置かなければならない。工事においては保安の確保、適正化を目指すためにも主任

電気工事士の技術の向上が必要である。ことしだけに限らずこれからも毎年開催していきたい』とあいさつがありました。

引き続き、札幌通産局公益事業部施設課の本間技官が『電気事故防止』、道商工観光部産業保安課の山西企画保安係長が『電気工事業の登録』と題しての講演のうち、渡島、檜山両支庁の担当官から電気工事業法による立入検査の結果の発表があり、特に現場における標識の掲示が励行されて居らないようなので、次回の検査は工事最盛期に現場を重点に実施するとの達成がありました。

昼食休憩の後、北電函館営業所配電課大場副長が『高調波障害防止』と題して講演、最後は組合の第三者損害賠償制度調査委員の西岡理事が『誤結線の防止』と題して実例に基づいてわかり易く講演、約五時間に亘る会議を熱心に聽講有意義に終了しました。

向後この会議を継続するためには、いくつかの宿題が残されたようにも思われますが、各講師が共通して述べていた通り技術革新に伴なう技術の向上、保安の確保、工事適正化のために主任電気工事士の資質の向上はより一層強く求められるものであり、継続して開催されることと各事業所の主任電気工事士は必ず出席することを要望するのであります。

各講師の皆様に厚くお礼申しあげます。



姓 名	勤 務 先
山 城 芳 康	(有)西岡電気
池 田 義 則	平野電気工業所

昭和58年度卒業生名簿 (第17期生)

訓 練 校 卒 業 式

去る四月二八日、組合会議室において函館電気高等職業訓練校第十七期生の卒業式が、渡島支庁長(代理)、北電函館営業所長来賓のほか組合役員、訓練校関係者、組合員列席のもとに挙行されました。

細川副理事長、吉田校長の挨拶のあと卒業生四名に対し卒業証書・電気工事士免状のほか優秀賞、努力賞等に加え、数々の記念品も授与され、来賓祝辞のあと卒業生代表斎藤正弘君(㈱富岡電気工事勤務)が謝辞をのべ、卒業式を閉じました。

思えば、昭和三九年四月に組合事業の一環として職業訓練所を開設、昭和四二年五月には北海道知事の認可を受け函館電気高等職業訓練校と改称、同年一〇月には通商産業大臣より電気工事士養成施設の許可を受け、今日まで二五〇名の卒業生を送ってきました。

しかし、長期に亘る経済環境の不況に伴なって、年次入校者が減少し、昨年度は一年生を休講して今年度に期待したのですがやはり入校希望者がなく、遂に今年度は休校の已むなきに至りました。今日まで何かご苦労されてきました訓練校関係者のご尽力に深く感謝するとともに、歴史ある訓練校を廃校することなく一年でも早く再開されることを願うのであります。

全日電工連

第三者損害賠償制度

昭和五十四年六月一日に『第三者災害互助制度』として発足したこの制度ですが、その後全日電工連において検討を重ねてきた結果、現在では制度の名称も標題のように呼称され、従来の保険料についても加入費と改定されて共済制度として運用されて居ります。制度の内容についてはパンフレット等によって承知のことと思いますが、概要と特に留意する事項についてお知らせいたします。

- ◎ 事故がおきたときは、ただちに組合事務局担当者に連絡をするとともに、事務局に備付けの『事故発生報告書』により報告をして下さい。事故発生より三〇日以内に報告がなされない場合は補償いたしません。
- ◎ 補償金の請求は、金額により調査委員(会)が事故内容及び賠償額等を調査いたします。調査委員(会)の了承なく示談をした場合は、示談金の全額が補償されない場合があります。
- ◎ 事故がおきたときは、その状況が把握できるようになからず写真を撮って下さい。
- ◎ 無届工事及び法令に違反しておこなった電気工事が原因で負担する賠償責任は補償いたしません。
- ◎ 完成後の一般電気工作物、自家用電気工作物については、法令に定める調査または検査に適合した工事のみ補償の対象となります。
- ◎ 引込線受託工事業者として加入した者が外線工事をおこなった場合における事故は補償いたしません。

組合では、本制度が発足以來引込線受託工事業者の加入費を組合が負担して全組合員が加入してきましたが、本年度も組合が約二三五万円の加入費を負担し

て、六月一日付で全組合員の更改手続が完了しました。

最近は損額賠償に対する認識が非常に高まり、賠償額は年々高額化して居ります。昭和五七年四月から昭

和五八年四月までにおける加入費と補償金についてみると、全道では加入費二、一七七万円余に対して補償金が三、〇三九万円と上廻り、当組合についてみると、加入費約三三〇万円に対して補償金も同額の約三三〇万円と実に収支率一〇〇%と云うことであります。

当組合で発生した事故の内容は、誤結線・誤接続によるものが六件、内線工事によるもの三件、外線工事一件で、いずれも初步的な作業ミスによるもので電気工事業者として深く反省するとともに事故防止に一層留意してこの制度の円滑な運用を計らなければならぬと思います。

みなさんのご協力を願います。

事業者別区分	① 引込線受託工事業者	② 外線工事業者
加入費(年間)	9,840円	37,440円
自己負担額	3万円	7万5千円
	誤結線・誤接続による事故の場合は、一律150,000円	
補償金支払限度	作業中の事故	作業完了後の事故
人身事故	1名につき 4,000万円 1事故につき 1億円	1名につき 4,000万円 1事故につき 1億円 1年間ににつき 1億円
物損事故	1事故につき 5,000万円	1事故につき 5,000万円 1年間ににつき 5,000万円

●動植物および冷凍庫内収容品、貴金属、美術品、証書等の損害については200万円を支払い限度とします。

集団検診実施

去る四月二七日組合において、集団検診が実施されました。午前九時半検診車の到着を待つて、約二時間に亘り七項目について一二〇名が次々に受診しました。診断の結果については、それぞれ個人票に記録されて各事業所に送付されて居りますので確認して下さい。



今年度は血圧・尿糖・EKGの再検査と要治療の人方が若干ありました。指示事項が記載されている項目は必ずその指示に従って下さい。尚、検診を受けてない方は、必ず受診をして健康に充分注意して下さい。又、今回も函館赤十字血液センターの要請があつて献血をお願いしたところ、前回を上回る七二名が御協力下さいました。同センターでは大変感謝して居り、献血された人に対する血液型をはじめ諸検査の結果を直接通知してあります。血液型については組合事務局にも控えていますので、必要などきにはお尋ね下さい。

あかるい明日を技術でひらく

東芝電材株式会社

040
函館市大繩町二十一番十四号
電話函館四一一三四一

吟味する

松下电工株式会社

函館市昭和一丁目三〇の一
四一五八二

工事材料・電化製品

丸晃電氣株式會社

函館市西桔梗町五八九一四九
電話四九一三一三

電気設備機器資材の総合卸商社

大興電機株式会社

本社 営業所 電話 山越郡八雲町内浦町一〇七
函館市西桔梗町五八七一一〇七
電話代四九一六一二一一番
電話(三三六)三三三六九番

三菱電材特約店
あらゆる電設資材卸

隆東電機株式会社

函館市西桔梗町五八九一—〇八
電話四九一六二二一六

電設資材・機電綜合卸

進和電機株式会社

040
函館市松川町三四一
一一三一三

明日をひらく電設資材の総合卸商社

株式会社
工三ヤ商会

函館市富岡町一丁目四一一七
電話四三一三〇一一(代表)
本社札幌・営業所釧路、苫小牧

電氣工事材料
音響通信機器
総合商社

石垣電材株式会社
函館営業所

函館営業所 040-063-060

函苦幌市中央区北二条西
館牧一市四新四中八島五町五
一市一市四中二野二野二野二
三中四中二野二野二野二野二
八島五町五四一六一丁一三
四番四目九三丁二二三番二目
二二一三番二目五七番一番番
番代号代地